



さんが

第一〇八号

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

令和三年
西暦二〇二一年
正月

曹洞宗 東運寺

謹賀新年

玉龍山東運寺

住職 柳田彰宣

寺族 マヤ

妙子



画 妙子

新年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。
今年はどうのようになっていくのか、まだ不安な方も多いかと存じます。思いどおりにならないこの世の中で、あたりまえのありがたさを、しみじみ実感するばかりです。牛のようにゆっくりでも、しっかりと歩める一年であってほしいですね。

今春には、住職の子どもふたりが、曹洞宗大本山永平寺に上山します。お坊さんとしての階段を、またひとつ登ることになります。帰ってくるまで、楽しみにお待ちください。

ご本尊さまのもと、東運寺も新しい年をむかえました。檀信徒皆さまのご多幸を、心よりお祈り申し上げます。



お薬師さま 帰ってきました

一昨年より着手しておりました、薬師堂の修復工事が完了に近づき、お薬師さまが東運寺に帰ってまいりました。昨年末に、お寺の者で開眼法要を営み、このお正月、みなさまのお参りをお待ち申し上げております。

東運寺創立に関わる、由緒ある古い仏像が生まれ変わり、みなさまを再び見守り続けてくださります。

お薬師さまは、健康に過ごせるようお願い人たちの、祈りに応えると伝えられてきました。このコロナ禍での不安なお気持ちを、こぼしに来てくださいます。



新装なった薬師堂内に、仏さま方が収まりました。
中央に、ご本尊薬師如来。
左右に、日光・月光菩薩。
まわりを十二神将が囲んで、お守りくださっています。



先住一周忌 ぶじに勤まりました

昨年十一月、先代（東堂）泰明大和尚の一周忌を、縁あるお寺さま、東運寺役員のみなさま、そして親族のみにて執り行わせていただきました。

一年が早く過ぎることを感じますが、このコロナ禍を知らずに逝ったことを考えますと、時間は確実に流れているのだなという思いも抱きます。

写真は一周忌にて掲げた頂相（ちんそう―肖像画の軸）です。上に書かれている「遺偈（ゆいげ）」とは、禅僧がこの世を去るにあたり、後人のために残す辞世の詩のことです。



↑ ホームページ



↑ LINE

東運寺ホームページは→

京都 東運寺 検索